

設計演習Ⅲ

07 1. 都賀川沿いに建つ＜子育てスクエア＞

開講年次：学部3回生前期

〔担当教員〕

三輪康一（教授） 大西一嘉（准教授） 槻橋修（准教授）

寺岡宏治（安井建築設計事務所）

〔Teaching Assistant〕

瀬川瑞（A64） 谷大蔵（A64） 仲川絵理（A64）

■課題の概要

現代都市に暮らす人々にとって、子供を産み育てることは様々な課題がある。要因としては核家族化による地縁の希薄化、女性の社会進出による共働き夫婦の増加、単親世帯の増加などが挙げられる。子育ての負担が親に集中することが、都市でのライフスタイルとの間でストレスを生み、育児ノイローゼや幼児虐待といった招かれざる事態の遠因ともなっている。

従来より社会における「発達保障」の場として児童福祉施設は整備されてきているが、現代のような家族観、自然観が多様化する時代において、都市は子供達に、また子供を育てる親たちに、どのような場所を提供すればよいだろうか。本課題では以下に挙げる3つの方向性からひとつを選択し、子供のための空間、都市における福祉のあり方について考えてもらいたい。

- (1) 次世代をになう児童達が、健やかに育つための支援環境として、自由に利用できる施設。
- (2) 子育てに関わる様々な人が自由に集まり、交流するための施設。
- (3) 乳幼児の発達保障の場、生活空間を提供する施設。
- (4) 3つの施設が、交差点を中心に子育てスクエアとして一体的な空間をつくるように、それぞれが尊重すべき共通のデザインの方針（デザインコード）を設定することが望ましい。

■敷地

灘区都賀川の河川公園に隣接する敷地で、周辺は住宅地。

- ・「児童館」敷地①約 2030 m²＝東西 30m× 南北 70m(変形あり)

- ・「子育てカフェ」敷地②約 1550 m²＝東西 62m× 南北 25m
- ・「保育所」敷地③約 3100 m²＝東西 62m× 南北 50m
- ・用途地域等（近隣商業地域 / 建蔽率 80%, 容積率 400%, 防火地域）



課題敷地

■講評会の様子

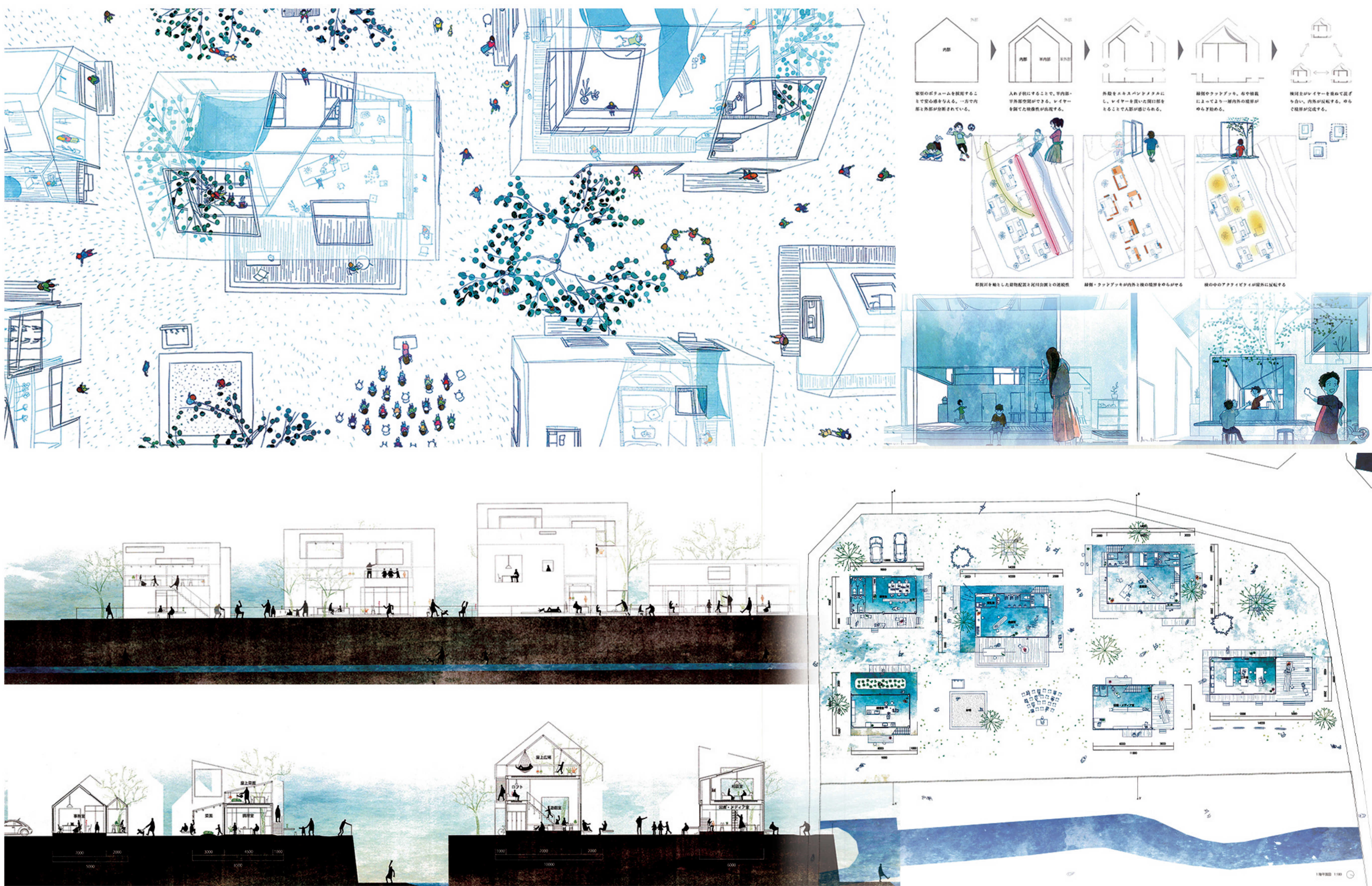
〔OBゲスト講評者〕西永大作氏（NTTファシリティーズ, AC15）



ゆるぐ境界

越智誠

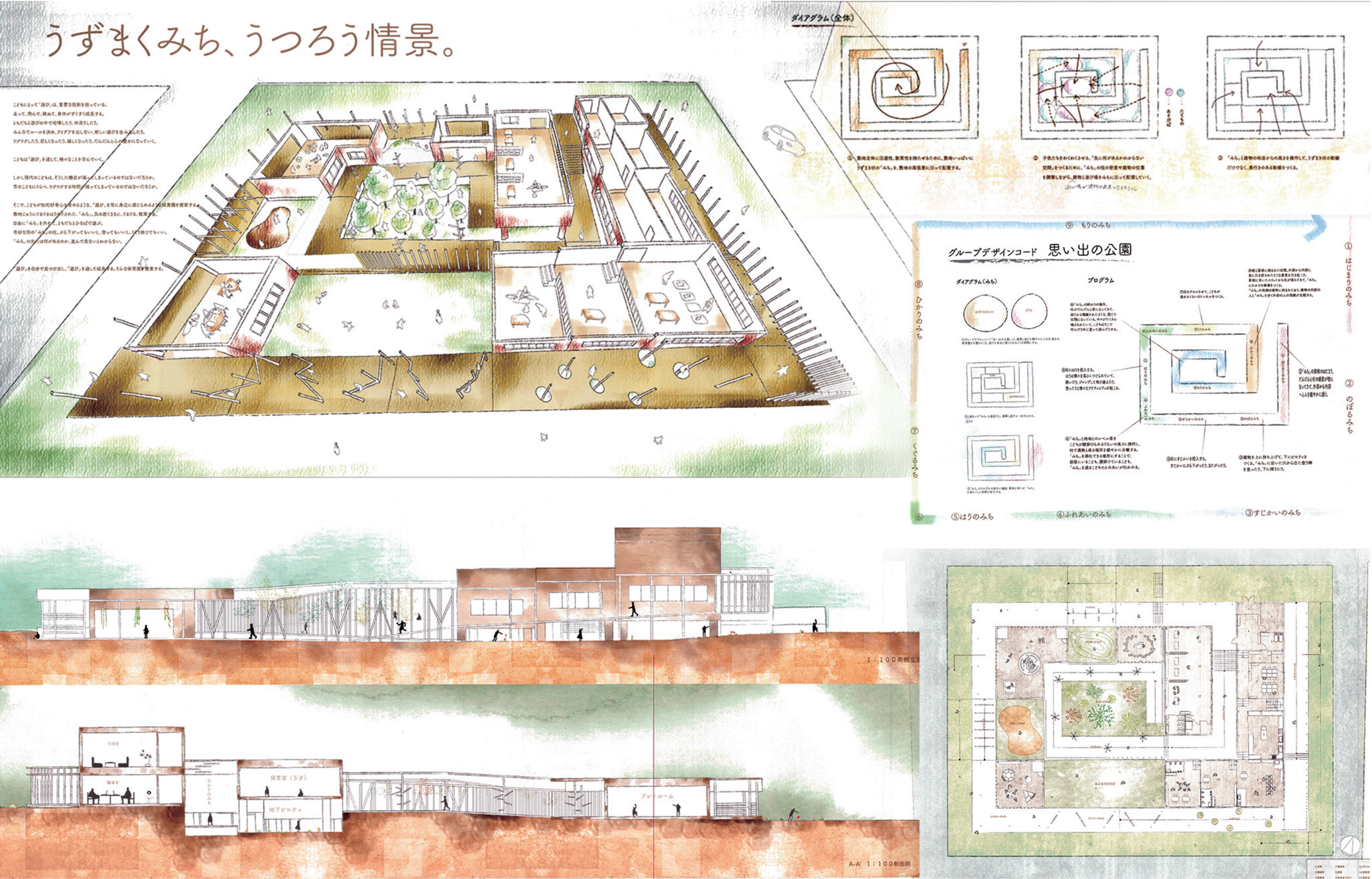
エキスパンドメタルや縁側といったバッファー要素から生まれる境界のゆらぎによって、内外のアクティビティが混合し、他者の気配を感じとることができる。公園や川、住宅地の境界のゆらぎと共に人間関係の境界もゆらぎ、多様な人がこの児童館に関わっていく。



うずまくみち、うつろう情景。

具志堅美菜子

敷地中にぐるぐるはりめぐらされた「みち」と、奇妙な形の「みち」の柱。柱にぶら下がってもいいし、のぼってもいいし、くぐり抜けてもいい。「みち」の先には何があるのか、進んでみないとわからない。子供の好奇心を育む保育園を提案する。



巡りて育つ環

長谷川貴士

内部空間を半屋外空間であるウッドデッキで繋ぐ。屋内外の両視点から建築を捉え、内部から外部へ広がっていくような有機的で三次元的な動線を確認し、子供達が遊びまわり、かつ動線上のどの点においても異なる風景を切りとれる保育園を提案する。



Jangle Street

米倉良輔

商店街とスクエアをつなぐ道を中央に設け、覆われた構造体が人々をスクエアへ誘う。格子をくぐるように設置されたデッキは子供たちが走り回る屋外空間であり、下を歩く人と上を走る子供との視覚的つながりが、より地域性の強い子育てスクエアを形成する。

